

平成 28 年度 第 1 回立川市史編さん委員会 会議録

開催日時 平成 28 年 7 月 12 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 45 分

開催場所 立川市役所 207 会議室

出席者 [委 員] 大友一雄 ◎白井哲哉 杉山章子 鈴木 功 豊泉喜一

○榑崎茂彌 保坂一房 星 由紀 和田 哲

（◎委員長、○副委員長、50 音順、敬称略）

[事務局] 新海きよみ産業文化スポーツ部長 岡本珠緒地域文化課長

小川 始市史編さん担当主査 朝比奈 新 清水裕介 鳥越多工

摩 中谷正克 森脇孝広 渡瀬綾乃 岡部利和

傍聴者 なし

次第

（１）委員長あいさつ

（２）立川市史編さん基本方針の策定について

（事務局）昨年度、当委員会で 3 回審議して答申をまとめ、去る平成 28 年 2 月 17 日に市長に答申していただいた。それを受け、別紙資料の通り、3 月 1 日に基本方針を決定した。

（委員長）2 月 17 日の午前 9 時に、榑崎副委員長と二人で市長に手渡した。その後、市長と、市史に関して話をした。

（副委員長）白井委員長から市長へ、市史編さんは市史の発行で終るものではなく、資料・史料をきちんと見て、触れられるようにしていくことが大事なことであり、実物を残していくことが大切であると話したことが記憶に残っている。

（委員長）基本方針にもあるが、市史編さんの目的の一つに「立川市の歴史的、文化的遺産を調査し、市民共有の財産として後世に継承すること」とともに、「歴史的公文書等の保存・活用に向けた基盤整備を行うこと」が挙げられている。市長には、市史編さんが終った後に、資料・史料をどのように残していくかということが大切であるということを伝えた。その際に、資料のデジタル化の話も出た。デジタル化も必要だが、デジタル化だけでは不十分である。長期に保存するなら、紙が最適であり、紙の質そのものも情報になり、デジタル化するとそれが失われるという話もした。市長は、市史編さん事業に関心を持っていてくれていると感じた。

（３）平成 27 年度事業報告及び平成 28 年度事業予定

（事務局）資料 3 に基づいて説明する。先史部会については、当初考古部会としていたものであるが、環境史から古墳時代ぐらいまでを担当することとして、先史部会と改めた。平成 27 年度に部会長に国学院大学の谷口康浩教授を委嘱し、平成 28 年度から活動を開始した。今後、大和田遺跡の第一次、三次、四次発掘調査の出土遺物と、個人から寄贈され歴史民俗資料館で保管している資料の整理を進めていく。部会員については、選考を行っているところである。

古代・中世部会は、平成 27 年度、部会会議を 1 回、資料調査を 3 回実施した。平成 28 年度は、部会会議を 2 回開催したほか、編集委員会会議も開いている。年度内に、部

会会議を5回開催することを予定している。資料調査は、板碑の調査を行ったほか、今後も、市内外の調査を予定している。

近世部会については、平成27年度、部会会議を3回と砂川地区の巡見を行ったほか、歴史民俗資料館所蔵の史料の目録をとることを進めた。平成28年度も、4回部会会議を行う。また、柴崎地区の巡見を行った。引続き、歴史民俗資料館所蔵史料の調査を行うとともに、市内の旧家へ聞き取りに入り、資料の確認調査を始めたいと考えている。

続いて近代部会は、平成27年度は2回部会会議を行い、市役所の永年保存文書や砂川村役場文書、N家文書、T氏寄贈文書の調査を行った。平成28年度は、部会会議を2回開催するほか、昨年度の調査を継続するとともに、東京都公文書館や周辺自治体の資料収集を進めていく。

現代部会については、平成27年度は、部会会議を3回行うとともに、近代部会と同様に、市役所の永年保存書庫や歴史民俗資料館の調査を行った。平成28年度は、立川駅北口から砂川地区東部の巡見を行った。部会会議を開催するほか、スクラップブックの見出し入力を継続するとともに、国会図書館等の調査を行っていく。

民俗・地誌部会は、平成27年度に部会を3回開催し、鈴木功委員の案内で、柴崎地区の巡見を行った。年中行事等の聞き書き調査も行った。平成28年度は、豊泉喜一委員の案内で、砂川地区の巡見を行った。それとともに、7月から9月にかけて、夏季祭礼調査を行っていく。地域の方に集まっていただき、話を伺う座談会も予定している。

最後に、事務局の事業として、平成27年度は、市史編さん委員会を3回開催し、答申をいただき、基本方針をまとめることができた。編集委員会も3回開催した。その他、市史編さん広報誌「たちかわ物語」の発行、市史編さん事業関連講演会の開催等を行った。平成28年度は、執務室の移転、関係者や関係機関への挨拶に回ったり、自治会へ回覧をしたりして、事業の周知と協力依頼を進めている。どの機関、関係者もととても協力的で、すでに話者の紹介をするとのことのお申し出もあるので、事務局独自でも聞き取りを進めていきたいと考えている。自治会の回覧を見たといつて、資料の寄贈もすでに何件かあった。また、8月10日号の広報の1面で市史編さんの周知と協力依頼を行う。広報誌の発行は、9月と3月の2回予定している。講演会も、3月に予定している。市民との協働については、第一弾として、この5月から公私日記研究会という市民団体と古文書の輪読会を始めている。安政年間に行われた諏訪神社の改修に関する日記の輪読を行っている。その他、マイクロフィルムのデジタル化や絵図・地図編に掲載する史料の撮影を予定している。

(委員長)講演会で、市長がたくさんの方に来ていただいてほつとしたと話されたことが印象に残っている。

(委員)古文書の輪読会について、参加者は公私日記研究会会員だけなのか。

(事務局)当初は公私日記研究会の会員のみを対象にスタートした。今後、発展させていきたいと考えている。

(委員長)会場はどこで行っているのか。

(事務局)歴史民俗資料館で行っている。

(委員)自治会の回覧を見て寄贈があったということだが、個人からか。

(事務局)個人からである。祖父の遺した地図や写真などを寄贈していただいた。

(委員)このような周知活動は、今後も継続していくのか。

(事務局)8月10日号の広報にも記事が掲載される。資料の集まり具合等を見て判断したい。

(委員)回覧は見逃してしまうことも多い。

(委員)隣組の何軒かに聞いてみたが、知らないといわれた。ゆっくりと丁寧に説明しないと、協力を得るのは難しい。このチラシを持って回って説明して、協力を求めることが大切である。

(委員)自治会の回覧板の場合、たくさんの資料と一緒に回ってくるので、見逃してしまうことも多い。

(事務局)これらと並行して、商工団体や農業団体の関係者等の中で、古い資料を持っていそうな方を紹介していただいたりして、個別に当たっているところである。

(委員)各部会で、具体的にどのようなことを行っているのかが、イメージできない。例えば、現代部会で行った調査は、具体的にどのようなものなのか。

(事務局)国会図書館では米軍関係の資料の調査を行っている。東京都公文書館では、立川市や砂川町が東京都へ提出した文書を探している。

(委員長)市史の広報紙や関連講演会に関して、委員の皆さんに何か依頼があるかもしれないが、その節はよろしくお願ひしたい。

(4)「絵図・地図編」の刊行について

(委員長)市史の資料編のトップをきって、平成31年3月に刊行が予定されている。現在、編集作業が始まっている。

(事務局)この「絵図・地図編」については、事務局で進めるということなので、近世、近代、現代の嘱託職員を中心に、資料収集を行うとともに、白井委員長と打合せながら、編集方針をまとめている。現在までにまとめたことを資料4として提示した。刊行は、平成31年3月を予定。体裁は、A4判タテ、並製本、カラー刷り。ページ数は、150から200。編集の基本テーマは、「近世から現代までの道路・用水・土地利用など市内の開発の変遷を辿る」。サブテーマとしては、「バス路線図、商店街図、空域図など立川市特有の地図を紹介する」とともに、「都市計画図、基地跡地利用計画図など将来の街づくりへもつながる資料を提供する」の2点を挙げている。

構成としては、初めに全体の解説をしたのち、各テーマに沿って、各時代の資料の紹介をしていく。それとともに、資料の大きさや年代、説明等の解説と場合によっては、トレース図も付ける。全図1, 2点を復刻して付録とすることも検討する。デジタルコンテンツについては、一部の掲載資料をDVD化して添付することや、地籍図のデジタル化も検討する。地籍図には、透明文字として地番を埋め込み、地番検索できるものとする。技術的な分野については、今後さらに検討が必要である。

(委員長)「絵図・地図編」については、事務局で編集作業を進めていくが、このような方針で、今後編集していきたいということで、本日、編集方針（原案）として提示したものである。地籍図というのは、明治の初めにつくられたもので、たいへん大きなものである。そのためDVDにしようと計画している。また、本日、参考として、昭和37年の立川市全図と砂川町全図の複製を持ってきた。

(委員)砂川町全図には、プリンス自動車工場の予定範囲もあるし、武蔵村山市と交換した部分の土地も描かれている。

(委員)立川市全図には、水田と水路がたくさん記入されているが、昭和 41 年には、ほとんどの田が廃止となる。それはカドミウム汚染によるものである。

(委員)基地拡張予定地に屋敷があったということを、記録に残したいと思っている。今ならまだ憶えている人もいる。砂川は、急速に変わりつつある。街道沿いは商店になり、住居はその奥に入ってしまった。砂川草分け六人衆の家の様子も大きく変わった。昔の様子を何とかして残したい。

(委員)昭和 20 年から約 6 年 8 か月は、日本は米軍の占領下にあった。米軍は占領統治を詳細に記録しており、それらの一部は公開されている。そのような米軍が作った資料等も利用していくと、市史が立体的になる。試みに、立川で検索してみたところ、124 点ほどヒットした。

(委員長)全部の資料を掲載することはできないので、収集した資料の目録だけでも掲載することを計画している。

(副委員長)デジタルコンテンツについて、地番と現行の住居表示が対照できるような仕組みをつくってくれるとありがたい。

(事務局)DVD の容量の問題もあるので、今後の課題である。

(委員)3 千分の 1 の地形図があるが、これは昭和 17, 18 年ころから 10 年ぐらいかけて、航空写真から地図に作成したものであるが、非常に利用価値が高い。1 軒 1 軒、母屋や離れ、蚕室等の建物が書かれている。可能であれば、ぜひ掲載してもらいたい。

(委員)これは一度復刻されているが、全部載せるとなると、膨大なものになるので、全体の中で検討することになるだろう。それと、空中写真の扱いはどうなるのか。

(事務局)収集対象とはするが、「絵図・地図編」には、写真は掲載しない方針である。別に、写真編を発行する計画である。

(委員)地図と写真を並べて掲載すると、分かりやすいものになる。もちろん全部そうすることは考えていない。

(委員長)どういう風に並べるかという、編集の問題もある。

(委員)埼玉県文書館に地図センターがあり、写真や地図を取り揃えている。利用数も高い。地図は様々な方面で活用される。需要が高い。

(委員長)収集した資料をすべて掲載することはできないので、リストを公開するとともに、できる限り現物を集め、利用者に提供できるようにすることが大切である。

(委員)古い地図に地勢を解説したものを一緒に掲載してもらいたい。

(委員)少し説明が加わると、地図の見方が変わる。理解も深まる。

(委員長)また何かお気づきの点等があれば、事務局に連絡してもらいたい。

(5) その他

(事務局)次回は、平成 29 年 1 月ぐらいに開催する予定。

<以上>